

令和5年度第2回吹田市スポーツ推進計画（スポーツ施設整備方針）策定会議 会議概要

- 1 日 時 令和5年8月17日（木） 18時から19時30分
- 2 場 所 吹田市役所高層棟4階 特別会議室
- 3 出席委員 富山委員長、祐末副委員長、松井委員、下岡委員、孫田委員、山本委員、水谷委員、望月委員、前田委員、村林委員、中野委員
- 4 欠席委員 林委員
- 5 事務局 井田都市魅力部長、西田文化スポーツ推進室長、金参事、中野参事、大村主幹、守屋主査、及川係員
- 6 議 題 (1) スポーツ推進計画（素案）について
(2) スポーツ施設整備方針（素案）について
(3) その他

7 議事概要

発言者	内容
委員長	議題1「スポーツ推進計画（素案）について」、事務局から説明をお願いする。
事務局	【議題（1）スポーツ推進計画（素案）について】 <資料に基づき説明>
副委員長	文章とグラフの数値が違うところがある。19ページのボランティア参加状況の数値について、『行った』の数値が、文章中では「3.7%」となっているが、グラフ内の対応項目を合算すると「3.8%」になる。小数点以下処理の問題だと思うが、全体を通してグラフ等の数値については再確認したほうがいい。
事務局	確認する。
副委員長	27ページの「つながる」のイメージについて記載されているが、文章で読むと具体的になりすぎ、限定されているように感じる。イメージ図のようなもので表現できればいい。
事務局	イメージ図の作成を検討する。
委員長	「つながる」に関連すると、第4章で子供や子育て世代等への取組をはじめ

	<p>め具体的な取組が記載されているが、各取組にひも付くような形で、取組によってどのようなつながりが生まれ、どのような効果があるのかを具体的に書いていくのはどうか。</p>
副委員長	<p>29 ページにある施策体系図の「つながる」に向かう矢印のとおり、1 から 3 の基本目標を通したつながりととらえているのであればこのままでいいとも思う。矢印が左から右に向かうようなイメージであれば、それぞれの取組からのつながりが見えたほうがいいと思う。</p>
事務局	<p>個別の取組ごとに「つながる」効果があるというよりは、大きく「する」「みる」「ささえる」取組を進めることが「つながる」につながっていくというイメージなので基本目標レベルでの記載になっている。</p>
委員長	<p>4 章の後ろに、これらの活動を通してつながりが生まれるというイメージや文章を追加してもいいかもしれない。</p>
事務局	<p>先ほどもあった「つながる」のイメージをどこに入れるのが、全体のつながりがわかりやすいのかを検討し追記する。</p>
委員長	<p>結果としてつながりが生まれるというところを表現するのはすごく大事なポイントである。</p>
A 委員	<p>基本目標 2 の具体的な取組のところで、トップチームとアスリートを分けたのはシンプルでわかりやすくなったと感じる。</p> <p>また、数値目標において「ガンバ大阪を応援している市民の割合」が設定されており、数値として出てくるのはガンバ大阪としてもいい指標になる。</p> <p>計画全体の中身は納得できる内容であり、わかりやすくなっている。</p>
委員長	<p>「ガンバ大阪を応援している市民の割合」をどう増やすかは、ガンバ大阪が頑張っていないといけない部分でもあるが、市の計画としてどのように取り組んでいくのか難しい。例えば、前回の会議でも話題にあがったガンバ大阪ののぼりを市内に広げていく取組を吹田市が音頭を取って実施していくのかなど、難しい点もある。</p>
B 委員	<p>いろいろな形でのスポーツの PR や、吹田市の中でのスポーツの機運を高</p>

	<p>めるメニューの1つとして、せっかくここにスタジアムがあるのでガンバ大阪を応援しようというのはあると思う。</p>
A委員	<p>38 ページにガンバ大阪との具体的な連携が書かれていることも、数値目標に挙げた要因だと思う。記載されている取組のどれがポイントになるというよりは、様々な取組の実施による効果を大きく捉えているということではないかと思う。</p>
B委員	<p>例えば、年に1回実施している市民招待デーについて転入者に対して案内をすとか、スポーツの機運を高めるさまざまな施策が今後検討されていくといいと思う。</p>
委員長	<p>チームがあると市民の一体感が生まれ活力が生まれると言われているので、連携を目標とするよりも、連携によって市民の一体感やスポーツを応援する機運を高めるという考え方と思う。</p> <p>市の非常に大きな資源・財産でもあり吹田独自のものであるので、連携しながら一緒に何かをしていくというのがいいのではないかと感じている。</p>
C委員	<p>SDGs については、国連がスポーツによる SDGs への貢献というアイデアを出しているが、実態が伴っていないのに SDGs に取り組んでいるように見せかけるという「SDGs ウォッシュ」は国際的にも社会的にも批判されている。この計画で SDGs との対応を検討する際には、実際に吹田市が行う取組が 17 のゴールより細かい 169 のターゲットに関係しているかどうかで判断しており素晴らしい。割と厳しめに SDGs ロゴと対応させているので、自信を持って吹田市は SDGs に貢献していると言い切りたい。</p> <p>同時に、生物多様性に関連する 14、15 番目のゴールと対応するものはなく、スポーツとは関係ないようになっているが、トレッキングや海のスポーツを通じて生物多様性を学ぶことなどができると思う。次期スポーツ推進計画の中では一度チャレンジして、独自の新しいことができないかを検討していただきたい。</p> <p>余談だが、実は現行の SDGs は、ターゲットも含めてスポーツ自体を目的としてゴールに掲げていない。国際社会では、2030 年度以降の次期 SDGs である「ポスト SDGs」や「ポスト 2030 アジェンダ」といわれるものの議論の中で、スポーツ自体が心身を育てるという意味からスポーツ自体が目的になってもいいのではないかという意見がたくさんあるため、吹田市</p>

	でもスポーツ自体を目的とした「ポスト SDGs」という話をさせていただいていいと思う。
事務局	次回の計画では、今回対応していない SDGs に対しても、取組を広げていくことができるかも検討していきたい。
D委員	最近、日中の暑さが危険なレベルのため、外でのスポーツができない。社会人は早朝や夜間にランニングなどのスポーツができるが、子供には難しいので、熱中症対策などの視点での環境整備が必要である。 また、吹田市の子供の運動能力の低下や、昔に比べてスポーツへの興味があまりないことには様々な要因があると思うが、ゲームなどの娯楽のコンテンツが増えてきたことから、スポーツを選ばないという若者の意識の変化もあると思った。
委員長	例えば体育館にエアコンを入れたりするということか。
D委員	エアコンの設置もあるが、暑いときにスポーツをしないというガイドラインをもつことなども考えられる。
事務局	環境省が暑さ指数や熱中症アラートなどを発表しており、現在、スポーツ施設ではそれらの指標に基づき基準を超える場合は、施設のキャンセル料をいただかないなど、熱中症対策を各自で取ってもらいやすくする取組は行っている。併せて、今回のスポーツ推進計画や施設整備方針にもある通り、熱中症対策や紫外線対策をはじめ、安全にスポーツができるようハード面での対応も必要になると考えており、検討していきたい。
委員長	娯楽が非常に増えている中で、どのようにスポーツをアピールしていくかアイデアはあるのか。
事務局	ライフスタイルの変化というところはなかなか難しい課題である。 子供の体力低下については、スクリーンタイムの増加というのも全国的に要因として挙げられている。その中でスポーツが選ばれるためには、子供のときからスポーツを楽しみ、日常的にスポーツに触れることが習慣になるということが大切だと考えている。競技スポーツなどといった高いレベルでのスポーツだけではなく、まず楽しみながら体を使って遊ぶような習慣を、幼児期や小中学生の頃からつけてもらえるように、施策1-1の①

	<p>で取組を挙げており、効果的に進めていけたらと考えている。</p>
副委員長	<p>熱中症対策については、指導者やボランティアの養成、関係団体の支援、連携といった「ささえる」のところに追記できる。</p> <p>環境が変わり、いつスポーツをするべきなのかなどの情報が錯綜する中では、支える人たちを支えるために指針やマニュアルを出すことなどは効果的である。また、出すだけでなく常に見直しや協議、共有を行うことなども「ささえる」に含むことができるのではないか。</p>
事務局	<p>現状は、「ささえる」は担い手の確保を中心としており、スポーツする環境の部分は「する」に集約している形になっている。</p>
副委員長	<p>「ささえる」に養成が入っているので、これらの情報を提供することも研修・養成とリンクできる。スポーツ関係団体の活動をただ支援するのではなく、活動をするうえでの危険マニュアルやリスク管理など、常に市が情報発信することも必要だと思う。</p>
事務局	<p>指導者やボランティアの方を養成する中で、安全にスポーツやボランティア活動するにあたっての正しい知識を理解してもらうというイメージか。</p>
副委員長	<p>常に情報発信や共有をするというのがいいかもしれない。例えば、コロナ禍は落ち着いてきたが次に何かがあったときは同じ対応ではだめかもしれないので、情勢にあったマニュアルを検討する場やコミュニケーションの場などがあるといい。</p>
事務局	<p>検討する。</p>
委員長	<p>人材育成が新たに育てるというだけでなく、今いる人のブラッシュアップや、知識をリニューアルしていくような機会の提供という意味合いも含めた書き方できれば、そこでいろいろな情報をリスクリングできる。</p>
事務局	<p>以前の会議で、新たな人材の育成だけではなく、なられた方の資質向上や新しい情報の提供という視点も要るのではないかというご意見もいただいたため、現在、「資質向上」という言葉も入れている。ご意見をもとに記載方法等を再度考えたい。</p>

C委員	安全に関する項目はどこかに書かれているのか。安全面の情報共有や学習ということを書かなくてもいいのか。
事務局	安全については、ハードを中心に競技性での安全や熱中症対策などを考えていたので、ソフト面で安全に関する項目は記載されていないと思う。
C委員	「する」側からは施策 1-3 に、「みる」側からは施策 2-2 になど、安全に取り組むための情報の普及・伝達・共有という考えかたがあってもいいのかもしれない。
E委員	<p>熱中症対策については、市からの指導のもとで指定管理者として取り組んでいる。</p> <p>また、昔は周辺に広場があり自由に遊べたり公園で野球ができたりしたが、今は様々な規制から禁止事項が増えており、最終的には騒音問題から公園をなくしたという話も聞いている。そういった課題への対応もどこかにあればいいと思う。</p>
F委員	<p>夏期期間も各地域の小中学校では学校開放をしているが、安全のため 11 時から 16 時はなるべく使用せず、基準となる暑さを超えると使用禁止というルールで行っており、体育館は温度が高く使用ができない状況。吹田市では、学校や校長先生がとても協力的で、本来は 9 時からのところを 8 時から前倒して実施させてもらっているところもある。子供たちにとっては早朝から午前中に運動をすることは、体力的にはいいことだと思う。</p> <p>ただ、高齢者に対しては、夏場は公園で集まったの体操は中止しており、いつやってくれるのかという声が挙がっている。皆さんにとってコミュニケーションや会って話をすることはすごく大事なことで痛切に感じている。</p> <p>気候の変動については、市から様々な情報をいただいております、それに基づき指導員の意識を確認している。地域では臨機応変に対応できている。</p>
G委員	安全の考え方はすごく幅が広い。いま熱中症のことに焦点が当たっているが、ウォーキングルートの整備や公園への健康遊具の設置などが進む中では、道を歩くときの安全や公園の安全などもあり、アンケートで今後実施したいスポーツとして上位にきているウォーキングやハイキングなどに対してのハード面での安全などもあるとなると幅広く、どのように書くのがいいのか難しく工夫が必要になるかもしれない。

事務局	<p>42 ページの民間事業者や大学との連携のなかで、「民間事業者」とあるが「民間スポーツ団体」とはどう違うのか。</p> <p>事業者に限らずクラブチームや NPO 法人等といった様々な団体を幅広くとらえた意図であったが、「民間事業者等」に統一する。</p>
G 委員	<p>「健康すいた 21」では、市、地域団体、市民、それぞれの取り組むべき事が書かれており、それらの活動や成果の評価のために行政だけでなく地域団体も活動実績等を提出している。</p> <p>スポーツ推進委員会や体育協会などはスポーツ関係団体に含まれており、ガンバ大阪も計画に記載があるが、健康づくり推進事業団はどのような位置付けになるのか。</p> <p>スポーツとしてではないが、親子や就労世代、若い世代で運動に無関心な層を対象に、約 1,600 人来るような「チャレンジ DAY」というイベントも実施している。その中で健康の啓発をし、特に高齢者の方には一生健康に負担なく歩けるために必要な筋力トレーニングなども含めたウォーキングに関する取組もしている。</p>
事務局	<p>スポーツ推進計画ということで、スポーツに焦点を当て「スポーツ関係団体」と書いているが、この計画では健康づくりのための運動も広くスポーツと捉えているので、健康づくり推進事業団も関係していると考えている。</p>
G 委員	<p>今後、成果を見ていくときに実績など健康づくり推進事業団に照会等はあるのか。</p>
事務局	<p>進捗管理としては、それぞれの取組ごと活動指標は設定しておらず、基本目標レベルの成果指標として数値目標を設定している 7 項目を管理していくことを考えている。個別の取組について問合せ等をする可能性はあるかもしれないが、具体的な取組ごとに数値での進捗管理は考えていない。</p>
H 委員	<p>普段、スポーツへの関わりが少ないからかもしれないが、一読するとわからない言葉が時々出てくる。</p> <p>障がい者スポーツでいうと、36 ページの「障がいのある人のスポーツ機会の充実」や「スポーツ施設のバリアフリー化」はイメージしやすいが、「インクルーシブスポーツ」という言葉はイメージが難しい。インクルー</p>

事務局	<p>シブスポーツを体験できるイベントの開催とあるが、どのようなものがインクルーシブスポーツなのか、分かりやすく伝わるといいなと思う。</p> <p>用語については、別途、用語解説を巻末に付けることに加え、必要に応じて脚注を入れることを考えている。写真やイラストも追加するなどしてわかりやすくしていきたいと思う。</p> <p>インクルーシブスポーツとは、障がいの有無、年齢、性別などに関係なく、みんなと一緒にできるようなスポーツの考え方で、例えば「モルック」や「ボッチャ」のような種目がある。</p>
I 委員	<p>熱中症対策については、施設運営の中では2時間に一度、熱中症計で計測し注意喚起するという対応をしている。他の自治体では、暑い時期は本来9時のところを7時から開館したり、夜でも利用できるように新たに照明を設置したりと、気温が低いときにスポーツをしてもらい、少しでもスポーツの場を提供できるように進めている。</p> <p>また、高齢者の方は直接会って話をするのが一番大事だと思うので、そういう環境づくりも進めていけたらいい。</p>
委員長	<p>基本理念は「Enjoy Your SUITable Sports!」だが意味の説明はここにはないのか。</p>
事務局	<p>26 ページの一番下の段落にある「誰もがいつでも楽しみながら身近にスポーツとかかわることができる」、「誰もが自分に合ったスポーツとのかかわり方を見つけられる」というところがイメージの説明になっている。</p>
委員長	<p>自分に合った適切なスポーツの環境づくりというニュアンスかと思うので、自分に合った技術レベル、難易度、時間帯で、安全に行われるということだと理解している。安全でいうと、暴力的な指導や様々なハラスメントからも守られるという観点もある。全部を入れると文章が長くなるので、うまく要素を入れられたらいい。</p> <p>また、それぞれの取組の実施主体のイメージを持って書いていると思うが、縦割りの弊害が出ないように、関係各所に周知していくことや主体がイメージできる書き方にするといい。</p> <p>さらに、今後この計画を周知することも必要だと思うので、ポスターやリーフレットを作成することも必要だと思った。</p>

C委員	SUITable Sports について、「SUITA（吹田）」と、適切に自分で自分に合ったスポーツを選択できるという「suitable」というのがかかっていることが分からないと意味がないので、どこかに意味を書きおいたほうが良いと思う。
事務局	シティプロモーションの中は使われてはいるが「SUITable」自体は造語になるので、イメージが分かるようにしたい。
委員長	議題 2「スポーツ施設整備方針（素案）について」、事務局から説明をお願いします。 【議題（2）スポーツ施設整備方針（素案）について】 <資料に基づき説明>
I委員	施設が老朽化しており、限られた財源の中でどうしていくかというのが一番大事だと思っている。吹田市には体育館が5館あり、現時点では維持できている人口が、今後、仮に減っていくとすれば、体育館が5館必要なのかというところも検討していかなければならない。 例えば、片山市民体育館のすぐ近くに片山市民プールがあり、どちらにもトレーニング室がある。体育館は市民大会クラスの大会しかできないが、大規模な大会をしていこうと思えば、もう少し大きい体育館が必要になってくるので、体育館のトレーニング室をつぶして広くし、トレーニング室はプールを利用してもらうといったように、効率的な利用ができるようにすることで財源も抑えられるのではないかと。また、施設数を減らして維持管理経費に充てることもありえるかもしれないが、地域に根付いているため減らすことは難しいと思うので、各館の特色をつくっていけばもっとうまく回っていくとを感じる。
事務局	市内の体育館はバスケットボールやバレーボール、卓球など様々な種目で、身近なスポーツの拠点として利用されており、予約がなかなか取れない状況からみても現時点では5館は必要と考えている。 ご意見をいただいたように、近接する施設で同機能のものについては、利用状況などもみたくうえで、必要性も含めて集約なども検討していかなければならない。
E委員	今後作成するスポーツ施設整備計画と、吹田市の公共施設（一般建築物）

事務局	<p>個別施設計画とは整合性をとっていく形とは思いますが、具体的にはどうなるのか。</p> <p>今年度はスポーツ施設整備方針を策定し、来年度は個別のスポーツ施設についてのもう少し具体的な方向性や整備内容を「スポーツ施設整備計画」として整理したいと考えている。</p> <p>一方で、本市の公共施設一般建築物全体の計画である「吹田市公共施設（一般建築物）個別施設計画」の見直しが令和7年度にあるので、「スポーツ施設整備計画」で整理した整備内容や優先順位などを反映させていきたいと考えている。</p>
E 委員	<p>吹田市公共施設（一般建築物）個別施設計画の方が優先されるということか。</p>
事務局	<p>吹田市公共施設（一般建築物）個別施設計画は、スポーツ施設だけではなく教育施設や市民ホール、公民館、学校など市全体の施設を含んだ計画であることから、スケジュールについても市の施設全体で調整されたそちらを優先することになると考えている。</p>
委員長	<p>スポーツ推進計画とスポーツ施設整備方針を今年度中に策定し、令和6年度にそれをもう少し具体的な整備計画に落とし込む。そして、令和7年度以降に、スポーツ施設以外の他の施設も含めて、市としてこの体育館はいつ頃建て替えや改修をするのかということが示される。そこで優先順位が高ければ優先的に建替や改修ということがあるかもしれないし、優先順位が低ければ、当分建替や改修はないかもしれないということか。</p>
事務局	<p>大まかにはそのようなイメージになる。</p> <p>吹田市公共施設（一般建築物）個別施設計画は、どのような考え方やまとめ方で令和7年度の見直しがされるのかまだ詳細はわからないが、今回策定するスポーツ施設整備方針、来年度作成を予定しているスポーツ施設整備計画の内容を盛り込んでいければと考えている。</p>
I 委員	<p>屋外プールとして、北千里プールと片山市民プールがあるが、改修や閉鎖等の計画はあるのか。</p>
事務局	<p>現時点で具体的に示すことのできる計画はないが、来年度、個別のスポー</p>

	<p>ツ施設の方向性を整理するにあたっては、全体の配置や築年数、利用状況、代替施設の有無なども含めて様々な可能性を検討していくことになると思っている。</p>
I 委員	<p>阪南市は5つあったプールを全部閉鎖するなど、他の自治体では閉鎖していく方向であることから、今後どうしていくのか気になった。吹田市もアーバンスポーツを進めていく考えもあるのであれば、住宅街にある片山市民プールを閉鎖してスケボーパークを設置するのは大きなクレームがあると思うが、住宅が近くにない北千里プールであれば、設置できるのではないかという考えもあり、今後どうなるのかを聞きたかった。</p>
事務局	<p>アーバンスポーツについては実施場所の確保を検討していく方向だが、市で専用施設を整備する必要があるのか、民間の施設を活用することができないか、既存のスポーツ施設などの運用を変更することで対応できるのかなど様々な方向から検討しなければいけないと思っている。</p> <p>プールについては、以前4つあったものを2つに減らしているので、利用状況等やニーズを見ながら今後のあり方を検討していくことになる。</p>
G 委員	<p>アンケートで今後実施したいスポーツとしてウォーキングなど個人でできるものが上位に挙がっているが、それに対してのスポーツ施設の役割や連携は何か考えているのか。</p> <p>例えば、ウォーキングがしやすい環境である北千里でスポーツ施設がランニングステーションやウォーキングステーションの位置付けをしたり、ウォーキングをしている人など誰もが入りやすいレストランを作り、中でやっている競技を見ることができたりなどが考えられる。また、片山公園もスポーツ施設が隣接しており、上の川の遊歩道整備計画などと連携できるのではないか。</p>
事務局	<p>ランニングステーションやウォーキングステーション設置の具体的な検討にまでは入っていないが、他部局も含めて市がウォーキングルートの整備やネットワーク化について取り組む中では、スポーツ施設がどのような役割を果たせるのかというのは、この先の事業展開にあたっては検討していきたい。</p>
G 委員	<p>市民がやりたいスポーツと、スポーツ施設の整備がかけ離れないようにすれば、大事な位置付けはもっと広がると思う。</p>

副委員長	<p>19ページの方針2に「インクルーシブの視点を持つ施設」とあるので、子供について別で方針4を出す必要はないのではないかと。</p> <p>また、18ページの課題と19ページの方針はリンクしている必要がある。「多様化するスポーツへの対応」という課題は、方針1のうち「長期的視点に立って様々な種目の受け皿となる施設」と対応させていると思うが、方針1の「多種目・多目的で活用しやすい施設」と対応していないのではないかと。</p> <p>これから体育館等のあり方は変わってくると思う。今まで会議しかしていなかった会議室をスポーツに置き換えるなど、スポーツ施設の様々な使い方ができてくるときに、多目的・多種目という考えのもと柔軟にこれからの時代に合った形にしていく必要がある。</p>
事務局	<p>子供に対しての取組は特に取り組んでいきたいものなので別で出している。</p> <p>また、18ページの2つ目の「多様化するスポーツへの対応」と19ページの「多種目・多目的で活用しやすい施設」が対応していて、多様化するものに対しても多種目・多目的で柔軟に使っていただけることをイメージしている。</p>
副委員長	<p>インクルーシブという言葉には年齢や性別等に関わらずすべての人が含まれるので、子供を別で出してしまうとそもそもインクルーシブではないのではないかと。インクルーシブという言葉を使うのであれば、子供は中に含めるべき。</p>
事務局	<p>表現の修正を検討する。</p>
D委員	<p>今後、学校とスポーツ施設を組み合わせるなど、複合施設の考え方が大事だと考えたときに、市の組織はいろいろな課に分かれているが実際に連携を取ることができるのか。</p>
事務局	<p>市全体の方向性としては、施設整備にあたっては効率性から施設の複合化・集約化は検討していくことになっている。具体的な整備を進めるにあたっては、周辺にある他部局の施設の状況等も踏まえた中で、集約化も含めてどのような形が適当なのか検討していく。</p>

委員長	<p>それでは、いただいたご意見を踏まえてスポーツ施設整備方針をまとめていただければと思う。</p> <p>最後に、スポーツ推進計画に 28 ページに指標が設定されているが、目標値の設定についてご意見をいただきたい。例えば「週 1 回以上スポーツを実施する市民の割合」は 70%が第 3 期スポーツ基本計画での国の目標なので、吹田市も 70%とするのか、現実的に 70%は無理だろうということでは 68%くらいにしておくか、それとも 20%増加するという書き方にするのか、何かご意見があれば願います。</p>
副委員長	<p>これまでの吹田の 10 年間の推移を参考にするのがいいのではないかと。到達できる現実的な数値がいいと思うが、今回はかなりアクティブな計画だと思えるので、そこから上乗せをしてもいいと思う。</p>
事務局	<p>計画策定は今回が初めてであり、スポーツに関するアンケートをとったのも初めてである。その中で数値目標をどのように設定すべきかご意見をいただきたい。</p>
副委員長	<p>予測で出すよりはある程度根拠があったほうがいい。スポーツのシンクタンクのデータなどが過去 10 年単位なら出ているかもしれないので参考にしてみてもどうか。</p>
G 委員	<p>週 1 回以上スポーツを実施する市民の割合は市民意識調査にあったのではないかと。</p>
事務局	<p>市民意識調査は今回実施したアンケートとは違い、スポーツに特化した調査ではないこともあってか、令和 4 年度は約 45%、平成 30 年度は約 37%と低い数値が出ている。また、平成 30 年度はスポーツという言葉についての解説はなかったが、令和 4 年度は国と合わせて、散歩・ストレッチなどの軽い運動も含むような解説も入れたことから少し上がっている。健康すいた 21 での調査では、健康に意識の高い方が答えられているからか 50%を超えている。</p>
G 委員	<p>今回実施したアンケートではスポーツをどう定義したのか。</p>
事務局	<p>国の数値との比較ができるように、国と合わせて散歩やぶらぶら歩きなども含めている。</p>

委員長	<p>ある程度到達可能なところに設定するのがいいのではないかという意見だった。他にも何か参考になるものがあれば、それを基に目標値を入れていただきまた共有していただきたい。</p> <p>続いて、議題3その他について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>【議題（3）その他】</p> <p><今後のスケジュール等について説明></p>
-----	---